

■我妻栄 民法学者。生涯かけた体系的著作「民法講義」で学界の源流となり、＜敗戦＞後の民法整備で中心的役割。

わがつまさかえ

八幡製鉄始・1897＝ 山形県米沢市で、米沢中学校英語教師我妻又次郎の長男に生まれる。母はつる。

日比谷公園・1903＝ 6歳：興譲小学校に入学、

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・・1906＝ 9歳：

伊藤博文暗殺1909＝12歳：父のいる米沢中学校に入学、父の渾名自雷様に対し、自雷っ子と渾名される。

明治天皇没・1912＝15歳：

第一次大戦始1914＝17歳：卒業し、第一高等学校一部丙種に首席で合格。
21ヶ条要求・1915＝18歳：

ロシア革命・1917＝20歳：卒業し、東京帝国大学法科大学に入学、
後に首相となる岸信介らと切磋琢磨して、
高等文官試験行政科に合格、
東京帝国大学法学部法律学科独逸法兼修を卒業、
大暴落・・・1920＝23歳：
原敬首相暗殺1921＝24歳：
水平社結成・1922＝25歳：同助教授となり、
関東大震災・1923＝26歳：文部省留学生として、欧米に留学
護憲三派圧勝1924＝27歳：
治安維持法・1925＝28歳：帰国、船上で鈴木禄と親しくなり、
円本時代始・1926＝29歳：当時としては珍しい、恋愛結婚。
金融恐慌・・・1927＝30歳：教授となった。

海軍軍縮条約1930＝33歳：関節炎を患いギブス着用。*晩年まで続けられる著書「民法講義」(第1冊「民法総則」)の刊行開始。刊行当時
には革新的な教科書であったが、とくに戦後は通説の代表と目される最も権威ある民法の体系書としての地位
を占め、学界・実務界にきわめて大きな影響を与えた。

満州事変・・・1931＝34歳：
国際連盟脱退1933＝36歳：

当時としてきわめて斬新な社会学的視角を法律学の研究に導入し、現在の民法学の源流の一つを成す。

日中戦争始・1937＝40歳：

第二次大戦始1939＝42歳：勲三等瑞宝章。
大政翼賛会・1940＝43歳：「事務管理・不当利得・不法行為」、
日米開戦・・・1941＝44歳：
・・・1942＝45歳：海軍経理学校教授を兼務、

敗戦・・・1945＝48歳：＜敗戦＞後、東京帝国大学法学部長。
新憲法公布・1946＝49歳：貴族員議員。諸委員会の委員となり、戦後の民法改正事業に参画、

極東裁判決・1948＝51歳：日本私法学会理事長。「経済再建と統制立法」、宮沢俊義と共編の「六法全書」、

独立回復・・・1951＝54歳：
メデー事件・1952＝55歳：*{ジュリスト}が創刊され、宮沢俊義と共に編集にあたる。

自衛隊発足・1954＝57歳：「近代法における債権の優越的地位」刊行、

国連加盟・・・1956＝59歳：法務省特別顧問。晩年まで続けられる「民法案内」も刊行開始。
なべ底不況・1957＝60歳：*定年により東京大学を退職した後も、民法の改正をはじめとする各種の立法事業において中心的な役割を
果たし、また多数の論著を発表するなど、精力的な活動を続け、

インスツルメン・1958＝61歳：原子力委員会専門委員。
安保闘争・・・1960＝63歳：憲法問題研究会の一員として"安保問題講演会""民主政治を守る講演会"に出席。{朝日新聞}に「岸信介君に
与える」を寄稿。

タイタイ病始・1961＝64歳：「親族法」。法学博士。
TV宇宙中継始1963＝66歳：文部省学術顧問。
東京オリンピック1964＝67歳：文化勲章。米沢市名誉市民。

いざなぎ景気1966＝69歳：母校米沢中学校に私財を寄附して、財団法人自頼奨学財団を設立。「民法研究」刊行開始。
美濃部都知事1967＝70歳：勲一等瑞宝章。

全共闘ピーク・1969＝72歳：
大阪万博・・・1970＝73歳：母校興譲小学校に{まがき文庫}設立し、
ドルショック・・・1971＝74歳：荒砥小学校に児童用図書多数を贈り、{我妻文庫}とする。「民法研究」10巻、
日中国交回復1972＝75歳：「民法講義」7冊と「民法案内」11巻が完了したのち、
石油ショック1973＝76歳：急性胆嚢炎により、没した。勲一等旭日大綬章追贈。

「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、インターネット、